

平成29年度小牧市歴史館ジュニア企画展

こ ま き や ま れ き し た ん け ん 小牧山歴史探検

会 期 平成29年7月21日(金)～9月20日(水) ※8月17日(木)は休館日
会 場 小牧市歴史館3階

ごあいさつ

平成29年(2017)は、小牧山が昭和2年(1927)に国の史跡に指定されてから90年を迎えます。これを記念してジュニア企画展「小牧山歴史探検」を開催します。

小牧山は、総面積約21ha、標高85.9mです。街の中にありながらも、緑豊かな自然に囲まれ、いつもたくさんの方で賑わっていますが、かつて小牧山は城であった時代があります。

みなさんは、日本の城と聞くと何が思い浮かびますか？名古屋城や姫路城のような、高く積まれた石垣や瓦葺きの屋根の上にしゃちほこがのった立派な建物(天守閣)、水をはった堀などを想像するかもしれませんが、このような城を近世城郭といいますが、実は、そのような姿の城は、日本全国に3～4万程度あったといわれる城の中のごく一部にしかすぎません。

小牧山城は、近世城郭が誕生する以前の城で、この頃の城は「城」の字からわかるように「土」から「成る」施設で、山を切ったり盛ったりして、堀や土塁、曲輪をつくり、敵の侵入を防ぎました。また、建物はほとんどが小屋程度のものでした。

しかし、近世城郭に欠かせないものの一つである石垣が、最近の小牧山城の発掘調査で見えられました。このことから、小牧山城は近世城郭のルーツであると考えられます。

今回の企画展では、小牧山が城として使われ、また、現在でもその様子を見ることが出来る場所を写真パネルで紹介します。

小牧山城の歴史の跡を見つけに行きましょう。



平成29年7月

小牧市・小牧市教育委員会・小牧市施設活用協会

- 園路(大手道)
- 園路
- 樹林地
- 芝生地
- 平地
- WC ● トイレ



— 参考文献 —

- 「小牧叢書16 小牧山城」
編集 小牧市文化財資料研究会
発行 小牧市教育委員会 1998年
- 「小牧叢書17 続小牧山城」
編集 小牧市文化財資料研究会
発行 小牧市教育委員会 2000年
- 「小牧散歩 I」
編集 小牧市文化財資料研究会 小牧市教育委員会
発行 小牧市教育委員会 2007年
- 「日本の城」
監修 三浦正幸
編集・発行 株式会社主婦の友社 2009年
- 「カラー図解 城の攻め方・つくり方」
監修 中井均
編集 しみゆ歴史編集部
発行 株式会社宝島社 2017年
- 「小牧の文化財散歩」編集・発行 小牧市教育委員会
- 「近世城郭のルーツ 小牧山城歴史探訪ガイド」
編集・発行 小牧市教育委員会

平成29年度小牧市歴史館ジュニア企画展

「小牧山歴史探検」

— 編集 —

- ◆ 小牧市教育委員会生涯学習課文化財係
〒485-8650 愛知県小牧市堀の内三丁目1番地
TEL(0568)76-1189
- ◆ 小牧市施設活用協会
〒485-0041 愛知県小牧市小牧二丁目107番地
TEL(0568)71-9711

こまぎ、やま しろ 小牧山は城だった!?

小牧山に初めて城がつくられたのは、今から約450年前の永禄6年(1563)です。尾張国(現在の愛知県北西部)を支配していた織田信長は、小牧山に城をつくり、また、山の南側には城下町をつくり、それまで住んでいた清須城(愛知県清須市)から小牧山城へ移りました。4年後の永禄10年(1567)に美濃国(現在の岐阜県南西部)の斎藤家を攻め滅ぼすと、信長は斎藤家の住んでいた稲葉山城(現在の岐阜城)へ移ったため、小牧山城は使われなくなりました。



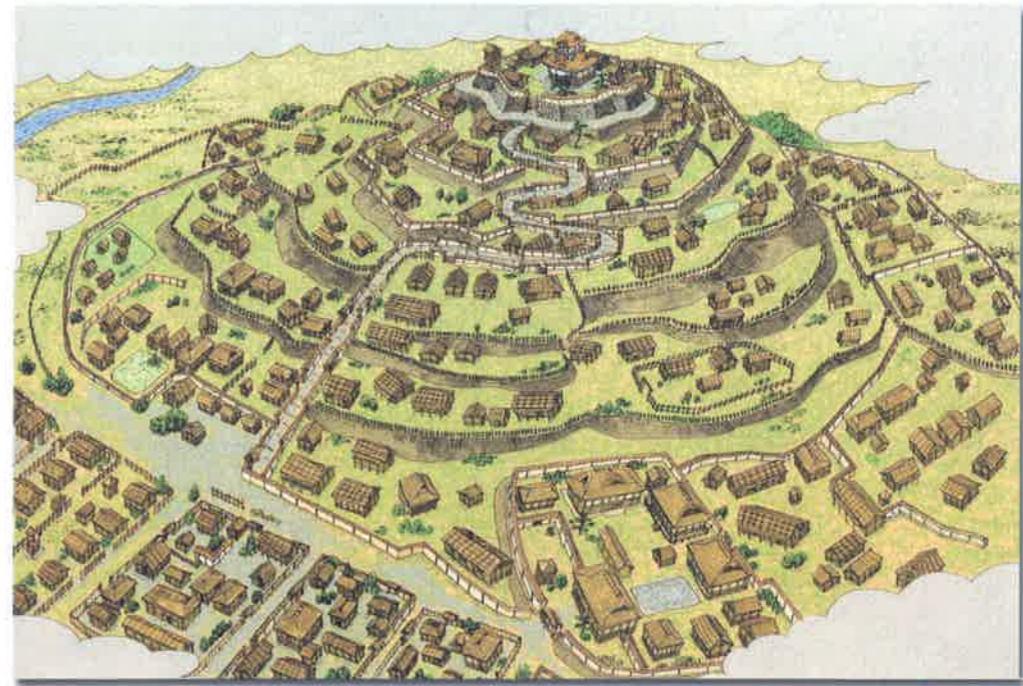
信長が稲葉山城へ移ってから17年後の天正12年(1584)には、織田信雄(信長のこども)・徳川家康連合軍と羽柴(豊臣)秀吉が、信長が亡くなった後の後継(その人の仕事や地位を引き継ぐこと)を争った「小牧・長久手の合戦」がおきました。この時に、信雄・家康連合軍は、敵が攻めてこられないようするために、かつて信長がつくった城跡に、手を加え、陣城(戦いのため一時的につくった城)としました。この戦いでは小牧付近で大きな戦いはなく、また、この年に和解したため、再び城は使われなくなり、その後も城として使われることはありませんでした。



江戸時代に入ると、尾張藩は小牧山を大切に守り、一般の人が山に立ち入ることを禁止しました。これにより、かつて2回城として使われていた時の小牧山城の姿が良い状態で残りました。

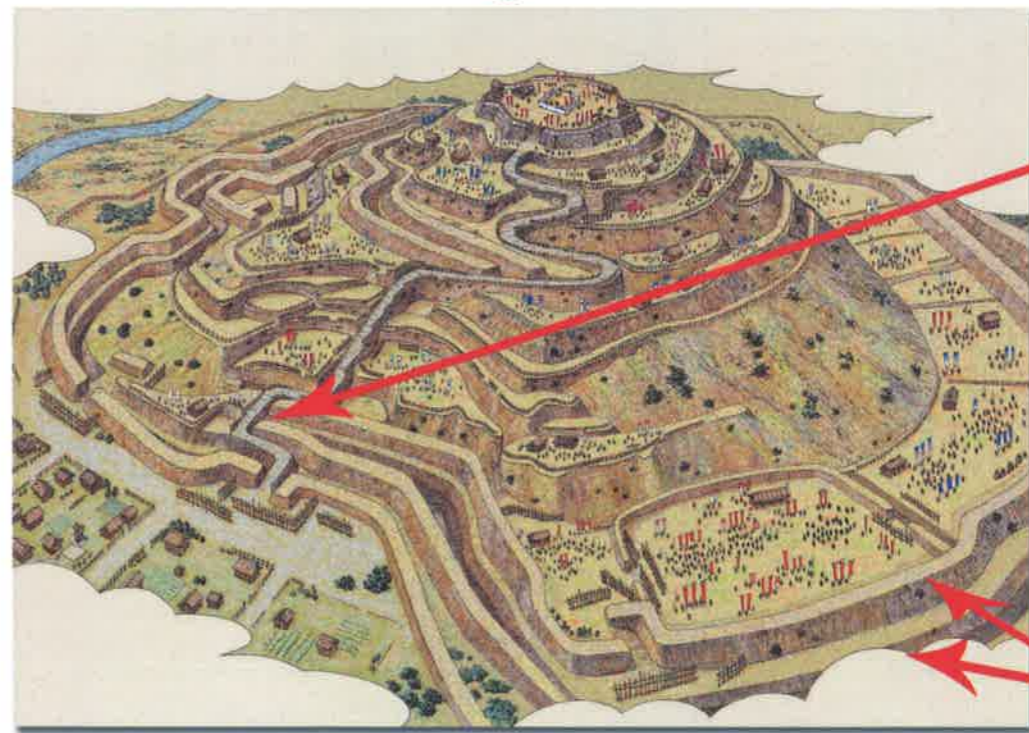


小牧山は城として使われていた当時の姿を残していることから、文化財として大切に残していく場所として、昭和2年(1927)年に国の史跡に指定されました。



(イメージ図)

織田信長がいた頃のこまぎ小牧山城
永禄6年(1563)~同10年(1567)



(イメージ図)

織田信雄・徳川家康連合軍がいた頃のこまぎ小牧山城
天正12年(1584)



その後、城として使われなくなる

山頂からの見晴らしのいい小牧山に、一から城をひく、山の南側には城下町をひいた「マ」。



大手道がまっすぐではなくなっているコマ。



新たに二重のどるい土塁ができているコマ!



① 屋敷跡伝承地

発掘調査によって、このあたりにかつて寺院があったことがわかりました。その寺院は信長が城をつくる時に城の外に移転させられたと考えられます。

発掘調査からは、このあたりは信長がいた頃と信雄・家康がいた頃の2度手を加えられていたことがわかっており、信長がいた頃には、石を並べたり、土を固めたりした土木工事が行われたことがわかっています。



② 大手口(虎口e)

城の正門です。現在は東側から階段をのぼって山に入りますが、本来は南側からまっすぐ山に入っていました。小牧山城の正面の大手口から山頂へ向って大手道が続いています。大手道は、信長がつくった時には5.4mの幅があったと考えられます。



※黄色の矢印が大手道です。

⑤ 搦手口(虎口h)

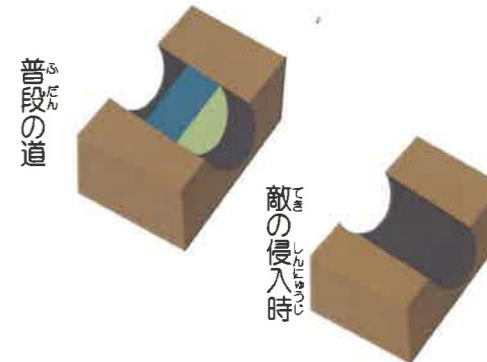
搦手口とは、城の裏門にあたる出入口です。山頂へと搦手道が続いていたといわれていますが、どのように続いていたのかは、まだわかっていません。

信雄・家康連合軍により、搦手口の左右に、高さ3.5mほどの土塁がつくられました。



⑥ 土橋

堀の一部をわざと掘り残し、その上に細い道をつくったのが土橋です。いざという時にはここより上を守るためにすぐに崩せるつくりです。



③ 桜の馬場

小牧山の中腹の曲輪の中では一番大きなものです。



④ 空堀跡

信雄・家康連合軍によりつくられたもので、主郭へ敵が侵入することを防ぐため、地面を掘りくぼめてつくった空堀(水が入っていない堀)です。深さは全般的に1.5mほどで、深い所は3~5mほどあります。



⑦ 虎口d

この虎口は信雄・家康連合軍によりつくられたものです。下には低い土塁で囲まれた道が続き、その道は2度折れ曲がるようにつくられています。

虎口から下へ続く道は傾斜がきついため途中でわからなくなっています。



⑧ 主郭

小牧山が城として使われていた時に、このあたりに建物があったかどうかはわかりません。現在は、昭和43年に名古屋在住の実業家、平松茂氏の寄付を受け、京都にある国宝飛雲閣をモデルに建設された小牧市歴史館があります。

※飛雲閣…現在は京都の西本願寺境内にあり、豊臣秀吉が、天正15年(1587)に建設した聚楽第の一部。聚楽第は秀吉が政治を行った所で、住まいにもしていました。



○が小牧山城主郭

9 石垣

信長が城をつくった当時の石垣を見ることが出来ます。

最近の発掘調査によって、主郭のまわりの斜面をぐるりと囲むように石垣がつけられていたことがわかりました。



10 小牧市役所旧日本庁舎跡地

信雄・家康連合軍によりつくられた土塁や堀を復元したところです。

土塁の高さや堀の深さを見ることが出来ます。



13 虎口g

この虎口は信雄・家康連合軍によりつくられたものです。虎口fと同じように、虎口の前が深い堀となっていて、内部に侵入しにくい強固なつくりになっています。



14 井戸跡

信雄・家康連合軍によりつくられた土塁の下から信長のいた頃の井戸を発見しました。井戸は素掘りで直径は約2m、深さは3.2m以上あります。井戸の底付近に、はめられていた井戸枠の木材がいったん引き抜かれた後、まとめて井戸の底へ投げ捨てられた状態で見つかりました。発掘調査では井戸の全体のつくりは明らかにならなかったため同時代の井戸を参考に復元しました。歴史館1階展示室にも復元展示してあります。

※素掘り…井戸や地下室などをつくるために地面を掘るとき、周囲の土が崩れるのを防ぐ工事を行わないで、そのまま掘っていく掘り方。



11 虎口f

信雄・家康連合軍によりつくられたものです。

ここにある木橋は見学用の通路で、本来の虎口にあったものではありません。虎口の前には堀がありましたが、どのように出入りしていたかはわかっていません。ここに復元した堀は雨水がたまらないように、本来の堀より浅くなっています。実際は、土塁の一番高い所から測ると深さ5.5m、幅11mもの堀があったことがわかっています。



12 曲輪

小牧山城の曲輪は山頂から順に1から番号がついており、山中には大小90ほどの曲輪がありました。

12の曲輪は北側に続く他の曲輪が45m四方の規模であるのに対し、75m四方もあり、小牧山城の中で最も広い面積を持つため、信長の屋敷があったのではないかとされています。



15 土塁断面展示施設

小牧山の周田につくられた土塁は、信雄・家康連合軍が短期間につくったもので、ここでは、土塁をつくるために積み上げた土や高さを観察することができます。

この土塁は、幅10m、高さ3m程の大きさと外側が急斜面で内側がゆるやかな斜面になっています。土塁の外側には堀があり、堀の底から測ると土塁の高さは5mにもなります。



- 枠・● 番号…小牧山城に織田信長が住んでいたころの様子が見られる場所。
- 枠・● 番号…織田信雄・徳川家康連合軍が「小牧・長久手の合戦」で小牧山城にいた時の様子が見られる場所。
- 枠・● 番号…どちらにも当てはまる場所。

【用語説明】

城…戦いを目的として、敵から侵入を防ぐ施設。
 虎口…城の出入り口。直進できないようにすることで、敵が侵入しづらい工夫がされている。小牧山では、a～iまでの9か所ある。
 堀…敵の侵入を防ぐため、城の周囲に掘られた溝。
 土塁…敵の侵入を防ぐため、土を盛り固めてつくった土手、堤防。
 曲輪…堀や石垣、土塁などで区画された平らな場所で、屋敷などがつくられていた。
 主郭…城の中心部。江戸時代の城では天守(本丸)にあたる場所。